



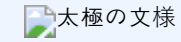
易(易)と大巡思想の円形的(圓形的)循環性

研究概要および目的

本発表では、易(易)思想と大巡思想の円形的循環性の原理を考察する。

- 東西の循環論の比較
- 陰陽五行の循環構造と現代的意義
- 大巡思想に現れる5つの循環特性の解釈

東洋循環論



易(易)思想

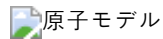
現代科学

大巡思想

東西の循環論の比較

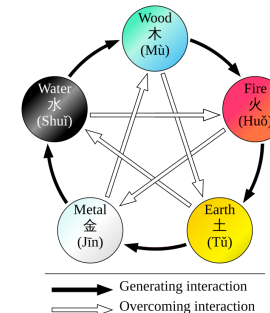
西洋：還元主義的アプローチ

- 分析的方法：万物を分割し減算して最小粒子を探究する
- パラドックスの発見：ラッセルのパラドックス、ゲーデルの不完全性定理
- 循環論理の排除：ユークリッド幾何学、アリストテレス論理学
- 現代的变化：循環論理と相関的思惟の再発見



東洋：全一主義的アプローチ

- 全体的観察：物質の結合と全体循環の展望
- 陰陽五行：加算的方法で万物の相互作用を説明する
- 元亨利貞：循環論的思考を通じた宇宙の理解
- 現代的意義：複雑系科学、創発性研究の先駆

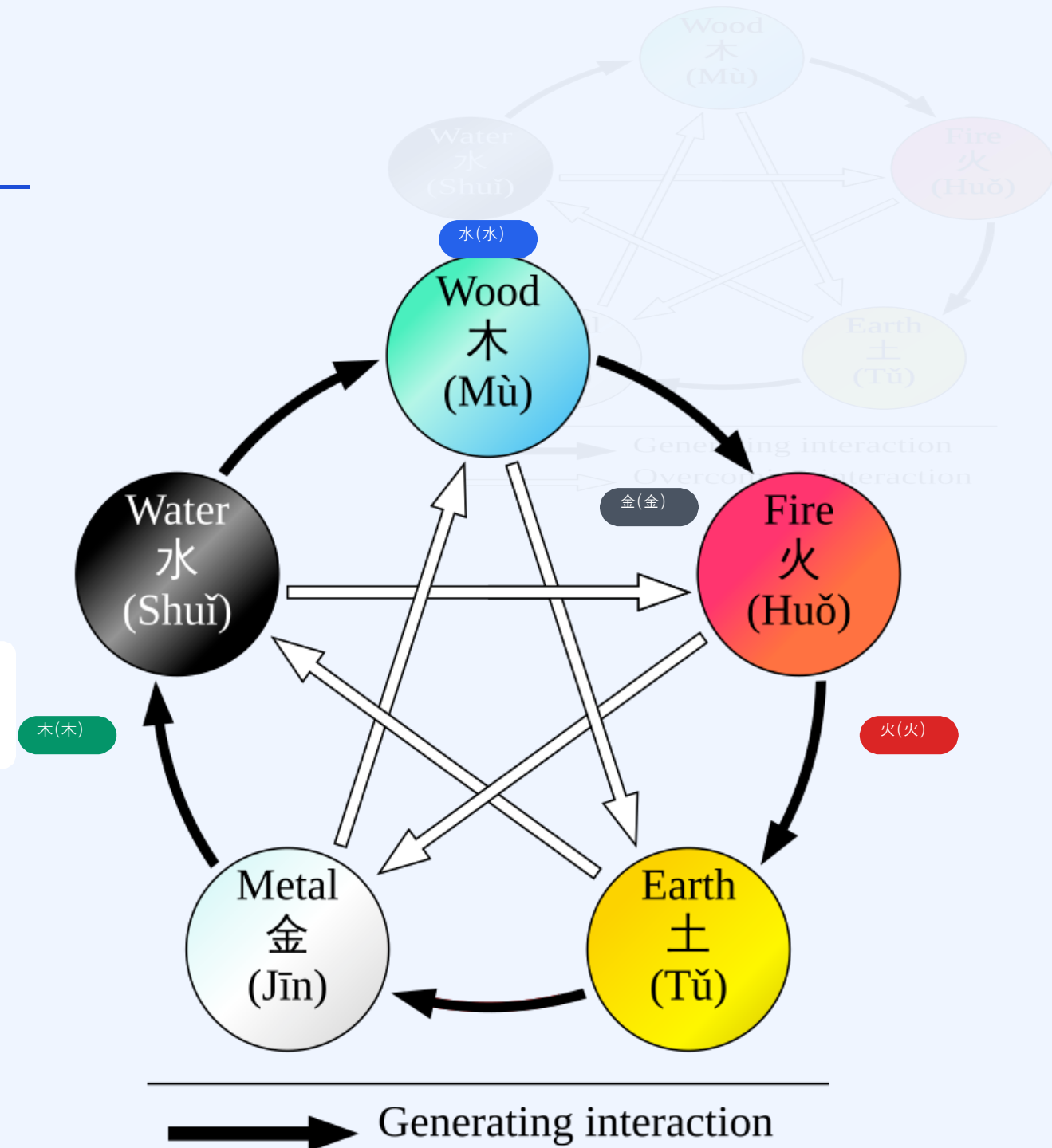


「西洋の不完全性の証明が発見され、数理論理学が発達すると、東洋の易(易)の伝統的な元亨利貞の循環論の科学性が明快に明らかになった。」

陰陽五行の科学的証明と循環モデル

- 陰陽五行の本質：万物を構成する5つの基本原理と相生 / 相克の関係
- 最小循環体系：相克—相生の関係が最低一度ずつ現れる最小の数である5(五行)と8(八卦)
- 科学的立証：複雑系科学、フラクタル理論を通じた検証
- 文明的応用：『黄帝内経』と韓医学、中国の科学的発明品の基盤原理

「五行は数理論理的にも相生と相克の最小体系として証明された。4と6は5とは異なり、相克—相生の均衡を成せない。」



易(易)の循環の5つの形式 3. 中和(中和)の特性

中心の統合と調和、均衡を成す原理



太極

1. 待対(待對)の文様

この5つの特性はそれぞれ太極思想の陰陽合徳、流通真境(道通真境)、解冤相生、神ノ

環

循環性

季節的・循環的運動、春

冬の流れ

上昇

4. 回帰(回歸)

ードバック、恩恵と忒(隻)の相互的な

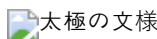
です

、増産(増産)、創造的

待対(待對)と陰陽合徳

待対(待對)の意味

- 互いに向き合って待つ：相克する差異ではなく差異の調和
- 陰陽の複雑系：水と火のように互いに異なる属性が待対する
- 天地泰卦の原理：陰陽の自然な調和と循環
- 視覚的表現：太極旗の太極とフラクタル文様で表現



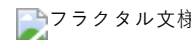
太極の文様

陰陽合徳(陰陽合徳)

- 「合(合)」の三つの意味：陰と陽が互いに適合する

陰と陽が徳を互いに統合する。陰陽が出会って徳を作ることを学ぶ

- 儒教の「合其徳」との比較：後天開闢の意志を反映
- 陰陽の自由：均衡を成すまでの動き



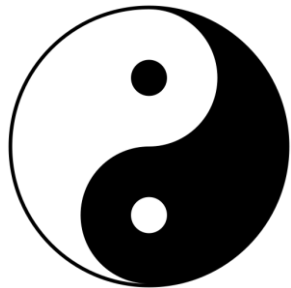
フラクタル文様

「陰陽合徳には、崩れた待対性を回復し、天地のように大きな事象を創造しようとするという意味が込められている。陰陽の

流行(流行)と道通真境

流行(流行)：循環の動的側面

- 定義：待対(待對)の動的形態、万物の運動性
- 季節的循環：春・夏・秋・冬の反復的变化
- 中国の太極の特性：陰の中の陽、陽の中の陰として流行性を表現
- 噴水の原理：少陰(冬) → 少陽(春) → 陽(夏) → 太陰(秋)の循環



道通真境：循環の完成

- 神道(神道)の概念：天地人の三界のプラットフォーム(platform)
- 陰陽の均衡：陰陽が均衡を成して永遠に循環する状態
- オペレーティングシステムの変化：人間を含む新たなプラットフォームへの転換
- 経済思想：共同体主義として発現する流行の均衡の実現



「道通真境とは、陰陽の均衡が取れて永遠に循環しうる状態、すなわち永久機関のような理想的循環の境地を意味する。」

大巡思想の循環原理と現代的意義



中和(中和)と解冤相生

- ◆ 中心から周辺の統合と調和
- ◆ の役割。フラクタル・カオスの3の原理の適用。怨(怨)
- ◆ の解消と相生への転換。後天開闢の実現原理として作用



回帰(回歸)と神人調化

- ◆ 循環維持のためのフィー
- ◆ ドバック機能。恩恵と척(隻)の相互作用の原理
- ◆ 神明と人間の調和的協力 成事在人 (成事在人) の実現経路



螺線(螺線)と増産の原理

- ◆ 循環の創造的上昇と増産 (増産) 限界遞増の複雑系経済
- ◆ 原理の適用 大巡 (大巡) の力動的成長循環 差異と統合の螺旋型発展構造

現代的意義と示唆点

大巡思想の原型的循環性は、単純な円環的反復ではなく創造的循環構造として、現代複雑系科学と深い関連性を持つ。陰陽合徳、道通真境、解冤相生、神人調化は、陰陽の不均衡を回復する後天開闢の実践原理として作用する。

経済的観点においても、自由至上主義、共同体主義、功利主義、社会契約主義的要素を包括する統合的観点を提示し、持続可能な発展と相生のパラダイムのための哲学的基盤を提供する。

